

南山大学広報誌

NANZAN

BULLETIN

vol.201
2017. 6.30

特集
学長・副学長紹介
Q棟2階
ラーニング・commons開設



NANZAN
UNIVERSITY

2017年度からの学長、副学長をご紹介します。

任期：2017年4月1日～2020年3月31日(3年間)



学長
短期大学部学長
人文学部 教授
鳥巢 義文

専攻分野
組織神学、実践神学
長期研究テーマ
神と世界についてのキリスト教的説明

私は緑の豊かな南山のキャンパスが大好きです。本学に集う一人ひとりが自分の才能を自覚し、協調して伸ばし合えば、世界のどこにあっても通用する人間力を習得できます。南山で教養に裏づけられた実践的コミュニケーション能力を磨きましょ。キャンパスを国境のない学びの場とするため、私は副学長と力を合わせて、果敢に取り組みます。皆さんも、緑に囲まれたキャンパスへいらしてください。



副学長
(総務担当・将来構想担当)
法学部 教授
青木 清

専攻分野
国際私法、韓国法
長期研究テーマ
日韓涉外家族法

3年ぶりに副学長に復帰しました。今回は、総務・将来構想担当です。本年4月から総合政策学部が名古屋に移転し、待望のキャンパス統合が実現しました。また、国際教養学部も新たにスタートしました。この新しい態勢の内容的充実を図ることが、われわれ新執行部の第一の使命だと考えています。皆さまのご協力を得ながら、着実にそれを実現していきたいと考えています。よろしくお願いします。



副学長
(教学担当)
人文学部 教授
吉田 竹也

専攻分野
文化人類学
長期研究テーマ
バリと沖縄の観光と宗教の人類学的研究

私は、教育・研究・学生に関する諸事を担当します。学部生そして大学院生が充実したキャンパスライフを送れるよう配慮していく所存です。そのために必要なのはチームワークと考えています。学長を中心に、教員・事務職員が一体となって、よりよい教育・研究の環境づくりに向けた努力を積み重ねていくことが肝要と考えています。皆様方のご理解とご支援を、何卒よろしくお願い申し上げます。



副学長
(国際担当)
総合政策学部 教授
星野 昌裕

専攻分野
現代東アジア研究、国際政治学
長期研究テーマ
現代中国の政治変容に関する研究

専門は現代東アジア研究で、中国少数民族地域での調査、中国政治、中台関係、朝鮮半島問題などを研究しています。きっかけは学部時代にシルクロードを旅して少数民族の人々と交流したこと、北京大学留学中のルームメイトが北朝鮮からの留学生だったことにあります。ほんのちょっとした海外経験が、人生の方向を決定づけることもあります。そのような機会を多くの学部生・大学院生に提供できるよう職務に励みます。

Q棟2階 ラーニング・commons開設

2017年4月、従来からある図書館やS棟に加え、Q棟（2017年2月竣工）2階に「ラーニング・commons」を開設しました。約700㎡のスペースに4つのエリアを設け、学生が集い、グループ学習やプレゼンテーションの準備、論文・レポート作成など様々な学習用途に利用可能です。多目的な学習スペースとして、学生の主体的な学びを支えます。



グループ学習エリア

フレーム状のブースを採用することで半個室空間を創出しており、グループでのブレインストーミングやプレゼンテーションの練習、カジュアルな小セミナー等が可能です。



インフォメーションエリア

受付を設置し、機材の貸し出し等を行っています。プリントコーナーも設けました。



多目的エリア

人数に合わせて多目的に利用でき、小規模セミナーやワークショップ、講演会の開催等も可能です。フレキシブルにスペースを区切れるよう、移動可能なAV機器やスクリーン、展示パネルを設置しました。



ラウンジエリア

ボックスタイプのソファで落ち着いた学習できるスペース、ソファタイプの椅子でゆったりと学習できるスペース、一人で集中して学習できるカウンター席のスペースを設けました。



文部科学省「平成28年度私立大学等改革総合支援事業」タイプ4「グローバル化」に選定

本学は、文部科学省が実施する「平成28年度私立大学等改革総合支援事業（以下、本事業という）」において、タイプ4「グローバル化」に選定されました（平成29年3月通知）。本事業は、教育の質的転換、地域発展、産業界・他大学等との連携、グローバル化などの改革に全学的・組織的に取り組む私立大学等に対する支援を強化するため、文部科学省所管の補助金により、経常費・設備費・施設費を一体として重点的に支援するものです。

今回タイプ4「グローバル化」に選定されたことにより、私立大学等教育研究活性化設備整備費補助金への申請が可能となりました。本学では「Q棟2階ラーニング・commons整備事業」を申請し、2017年4月に補助が確定いたしました。

本学は、Q棟2階ラーニング・commonsをキャンパスのグローバル化に対して質的変革を起こす施設として位置づけました。ラーニング・commonsの設置は、大学教育の中心である学生の自主的な学びを促進することを目的とすることはもちろんのこと、さらに多様な文化的背景をもつ学生同士のグループ・ディスカッションやコラボレーションを通して、キャンパスのグローバル化に貢献する知的拠点を生み出すことを最大の目的としています。既存の枠にとらわれない新たな発想や問題解決策を創発・創出する新たなラーニング・コミュニティとしての役割を期待しています。

引き続き、本学の建学の精神に基づき、さらなる教育の質の向上と充実に努力してまいります。

私の研究



鹿野 緑 (しかのみどり)
国際教養学部 国際教養学科 准教授

専攻分野は、バイリンガリズム、言語習得、第二言語リテラシー。研究テーマは、第二言語習得臨界期、バイリンガル帰国子女の言語とアイデンティティなど。主な担当科目は、英語リテラシー、GLS English、国際教養学入門。

語による創作も注目を集めつつある分野です。

私が所属する国際教養学科は、教育レベルでトライリンガル(母語と英語を基本としてプラス第二外国語)を育てていますが、三つの言語を学ぶことは、三つのレンズ(世界を見る視座)を得ることを可能にする大きな経験となるでしょう。言語は重要なコミュニケーションの道具でありながら、アイデンティティともかかわって、私たちの人間性の一部を形作っていきます。人や社会が二つ(またはそれ以上)の言語を獲得するということは何か、それを探るのがバイリンガリズムです。



バイリンガリズムと世界を見る視座

バイリンガリズムというやや学際的な領域が、私の研究分野です。個人が二言語(またはそれ以上)使用者である状態や、社会が二言語(またはそれ以上)を併用する現象について探る領域です。バイリンガル話者は人類の歴史の早くから存在していたと考えられますが、現代ほど、人々が移動し、文化や言語がトランスナショナルな動きをしている時代はないかもしれません。

私がとりわけ興味を持っているのは、バイリンガル言語獲得と、学齢期の社会化の中で二つの言語・文化に晒されることから起こる帰国子女のアイデンティティや教育の問題です。学齢期の海外体験や、帰国後の母国への再適応などについて、現在、帰国子女の方々からナラティブ・データを集めています。また、二言語でのリテラシー発達や、第二言語で人はどこまでクリエイティブになれるかなど興味はつきません。さらに、私の研究のど真ん中ではありませんが、トランスリンガル文学者と呼ばれる作家たちの第二言

私のクラス



森田 貴之 (もりた たかゆき)
人文学部 日本文化学科 准教授

専攻分野は、日本中世文学、和漢比較文学。研究テーマは、軍記物語研究、日本における漢籍・仏典受容史の研究。主な担当科目は、中世文学研究、古典資料講読。

古典文学を通して昔の人の心を汲む

どの芸術作品でもそうですが、文学作品には知識として客観的に説明できる面とあくまでも個人的な体験においてしか語れない面があります。

私は、おもに鎌倉から室町時代にかけての日本の古典文学を対象に、実際の歴史がどう物語化されてきたか、中国文学がどのように日本に受容されてきたか、などを研究テーマとし、講義でもそうしたことを扱っていますが、これらは史実や原典との比較などを通してある程度知識として説明・伝達できる部分だと信じているからです。

一方で、文学作品は、そうした知識や論理とは全く別の次元で読者を直

接刺激します。研究対象とするよりもむしろ、純粹で本質的な受け取り方ともいえます。ですから、どの講義でも、学生が文学作品から何か刺激を得ることがあればと望んでいます。

ただ、文学作品は誰しもに同じように受け取れるものではありません。誰かの心を動かした作品が、別の人の心をも動かせるかどうかはわかりません。まして、古典文学の場合には、時代や文化の隔たりもあります。とはいえ、かつて誰かが感じ、書き残したことは、必ず時代を超えて誰かには届くものだと思います。文学作品に普遍的な価値があるとすれば、そういう意味においてでしょう。「古今和歌集」に「いにしへの野中の清水ぬるけれど本の心をする人ぞむ」という和歌があります。私の講義を受講してくれる学生には、かつての清水の冷たさを感じ取れる、「本の心をする人」であって欲しいと願っています。





INTERNATIONAL FRIENDSHIP



アメリカでの交換留学

外国語学部英米学科4年 近藤 葉月
留学先: Georgetown University(アメリカ合衆国)
留学種別: 交換留学
留学期間: 2016年8月26日~2017年5月13日

で難関なものでした。それぞれの学問への関心度が高く、博学多識な学生と授業を受ける日々はとても刺激的です。授業ごとの予習、復習に何時間かけても自分の意見を持つまで情報処理が追い付かないこと、またそのためうまくディスカッション展開することができないことなど、悔しい思いをすることが多々ありました。特に秋学期は自信をなくした時期が長く続きましたが、「頼れる友達をクラスで一人は作る」、「一日二回は発言する」、「課題は締め切り三日前には終わらせ、教授に確認してもらう」など具体的な目標を持って行動していくうちに、授業に積極的に参加できるようになりました。春学期にはより専門的な授業を選択し、悪戦苦闘しながら前回と同じように乗り越えられるよう、工夫をしながら取り組みました。

勉強に膨大な時間をかけてはいましたが、私は留学をするにあたり、「勉強だけに留まらない」と決めていたため、課外活動にも力を入れました。大学内でのオーディションを受けアカベラグループの一員になることができ、勉強の合間に練習に励みました。私の所属するグループは、英語だけでなく韓国語、ロシア語、中国語、フランス語、そして日本語など多国の歌を歌う特殊なグループでもあり、難しいと同時に一つひとつの歌にやりがいを感じました。一学期間に五つほどのステージに立ち、「大勢の人の前で歌を披露する」という昔からの密かな夢を叶えることができました。信頼できる仲間にも恵まれ、留学生活がより楽しく、より充実したものになりました。

これらの活動に加え、私は日本のテレビ局のワシントン支局でのインターンシップも経験しました。週に一度では

ありますが、街の中心部にあるオフィスに通い、アメリカで働くことを少し経験することができました。去年は大統領選挙が行われたこともあり、取材などを通して専攻であるアメリカ政治をより身近に感じる事ができたと同時に、原稿作りや撮影など、ニュース番組がどのように作られているのかを知ることができ、貴重な経験をさせて頂いたうえ、目まぐるしく変動する状況を肌で直接感じ、報道する側の視点から見ることができ大変勉強になりました。

留学したことによって、周囲の協力を得ながらも、様々な場面で自ら思い切った一歩を踏み出すことの大切さを学びました。その積み重ねによって掴んだチャンスは、必ず次の成長へと繋がっていきます。留学生活は終わってしまいましたが、ここでの経験を帰国後も最大限に生かすことが出来るよう、引き続き努力していきたいと思っています。



アカベラグループの仲間と共に

キャリア支援室 プログラム紹介

キャリア支援室では毎年多彩なプログラムを実施しています。「キャリアサポートプログラム」は、特に低年次生の参加を推奨していますが、全ての学年の方が参加可能です。また、学部3年次生と大学院修士1年次生向けには、秋以降に「就職支援プログラム」を実施します。学生の皆さんは、積極的に参加してください。

キャリアサポートプログラム

学部・学科別学び方講座(1年次生対象)

4月から6月にかけて、新入生対象の「学び方講座」を実施しました。各学科の教員から大学での授業の進め方や卒業後の進路などの説明をうけ、学生は自らの大学生活での具体的な目標や課題設定を行いました。

希望進路別ガイダンス【就職(民間)、就職(公務)、進学(文系)、進学(理系)】

4月から5月にかけて、低年次生を対象に希望進路の実現に向けて大学生活をどう過ごすかを考えるための講座を実施しました。3回に分けて行われた「希望進路別ガイダンス」では、南山生の進路実績や南山大学の支援体制のほか、学内外の講師を招き、幅広い情報提供を行いました。

インターンシップサポート[ガイダンス、選考対策、ビジネスマナー]

5月から6月にかけて、インターンシップの活用方法や参加するうえで必要なマナーを学ぶ講座を実施しました。参加学生はインターンシップの意義や参加手順について理解を深め、実習時や社会に出てからも役立つビジネスマナー等を身につけました。

卒業生に聞いてみよう!

6月に、各界で活躍する卒業生をお招きし、社会人としてのやりがいや生きがい、学生時代の体験等を伺う講座を実施しました。参加学生は自分自身が社会で活躍する姿をイメージしながら、身近な先輩の話に熱心に耳を傾けていました。

★秋学期には、実践・体験プログラムで自らの適性・強み・弱点を知る「テーマ別ワークショップ」や、業界・職種について理解を深める「業界・職種研究会」など多彩なプログラムを予定しています。

就職支援プログラム (主に学部3年次生・修士1年次生対象)

5月に就職ガイダンスを実施し、これから始まる就職活動への心構えや、就職支援プログラムのスケジュール等を確認しました。7月には夏休みを有意義に過ごすため「夏休み前講座」を実施し、秋学期以降の就職講座で、具体的な準備を進めていきます。

【9～10月の予定】※11月以降の予定はWebページまたはPORTAで確認できます。

プログラム名	文系	プログラム名	理系
第2回就職ガイダンス①※	9月20日(水)	第2回就職ガイダンス	9月27日(水)
第2回就職ガイダンス②※	9月27日(水)	就職講座1【筆記試験対策】	10月4日(水)
就職講座1【筆記試験対策】	10月11日(水)	就職講座2【自己理解・自己PR】	10月11日(水)
就職講座2【自己理解・自己PR】	10月18日(水)	就職講座3【業界・職種研究】	10月18日(水)
就職講座3【業界・職種研究】	10月25日(水)	就職講座4【志望動機・ESの書き方】	10月25日(水)

※①②の内容は同じです。(学部別)

キャリア支援室が移転しました!

キャンパス統合に伴い、キャリア支援室が新棟(Q棟2階)に移転しました。明るく開放的な空間となり、授業の合間など学生が立ち寄りやすい環境が整いました。学生の皆さんはぜひ一度来室してください。



活躍する南山大生

研究発表会で優秀論文賞を受賞

2017年3月4日にウインクあいち15階(愛知県立大学サテライトキャンパス)で開催された「第44回日本オペレーションズ・リサーチ学会中部支部研究発表会」にて、理工学研究科システム数理専攻博士前期課程2年の堀篤史さん(受賞時は1年)が、優秀論文賞を受賞しました。



受賞した論文は、「マルチリーダー・フォロワーゲームに対するGauss-Seidel型ペナルティ法」で、複数の先手プレイヤーと後手プレイヤーから成る非協力ゲームの均衡解を計算する手法を提案し、その理論的束束性を証明するとともに、計算実験によりその有効性を示したものです。

堀さんは、「研究内容が評価され、喜びを感じています。日頃から支えてくれている家族、研究指導していただいた福嶋先生をはじめ、多くの方々に感謝しています。この研究にはまだ課題があるため、これからも挑戦し続けたいです。」と話していました。

「名古屋なんて、だいすき」 名古屋市のカッチコピーに採用

2017年4月3日に発表された名古屋市の魅力向上・発信のカッチコピーに、経営学部経営学科4年の石田温香さんの作品「名古屋なんて、だいすき」が、応募総数3,386作品の中から最優秀賞に選ばれました。

石田さんは三重県在住ですが、祖母宅や大学がある名古屋は、「人が温かく、住みやすい街」だそうです。今回の応募について、「カッチコピーはただの思いつきではなく、川北ゼミナールで学んだマーケティングを生かし、名古屋市民の気持ちをカッチコピーに反映したことが結果的に良かったかもしれません。川北先生のおかげです。」と笑顔で語ってくれました。



今後、このカッチコピーは、名古屋市のパスターやチラシなどで2020年度末まで活用される予定です。

南山のDNA

チベット映画を世界へ



松尾 みゆき

文学部哲学科
1997年度卒業

Profile

卒業後、テレビ番組制作会社でドキュメンタリーを制作。その後、日本語教師になる。2006年から中国青海省で日本語教育に従事しながら、中国語とアムド・チベット語を学ぶ。映画『草原の河』の日本語字幕を担当。

私は卒業後、海外ドキュメンタリー制作を希望してテレビ番組制作会社で働いていましたが、現地でより深く取材したいと思い、日本語教師になり、海外へ移住することにしました。

2006年に南山大学から中国青海省(チベット・アムド地方)の学校を紹介され、そこで2年間日本語を教えました。青海省はチベット人が多い地域で、学生の半分はチベット人でした。私はチベットについて何も知らなかったため、チベット人の生活を深く知りたいと思い、そのまま青海省に住み、ボランティアで日本語を教えながら、中国語とチベット語を学んでいました。

2015年に日本への帰国を決め、帰国直前に、以前私が日本語を教えていたチベット人学生と9年ぶりに偶然再会しました。彼は9年前、映画を作ることが夢だと言っていましたが、家庭の事情で夢半ばにして田舎に帰った学生でした。当時、青海省の若者が夢を実現することは難しく、みんな諦めがちでしたが、彼は長い時間をかけて夢を叶えていました。その彼がスタッフとして制作したのが『草原の河』です。この映画は、チベット人の牧畜民の

家族の物語です。チベット人の等身大の姿を日本の方々にも見ていただきたいと思い、日本語字幕をつけたいと願いました。その後、ソントルジャ監督や会社の仲間たちを紹介してもらい、日本での上映を目指し、みんなでがんばって来ました。多くの方のご尽力で、現在日本各地で上映させていただいています。

この出会いを通じ、一生をかけてやっていきたいことが見つかりました。最近では、映画はもちろん、まだほとんど作られていないチベットのドキュメンタリーやアニメの制作もサポートしています。これからもそれらの作品を日本に、そして、世界に紹介していきたいと思っています。



『草原の河』
監督・脚本:ソントルジャ 配給:ムヴィオラ
4月29日より若波ホールにてロードショー!
ほか全国順次公開!自主上映会も受付中。
公式サイトwww.moviola.jp/kawa

2017.3.18

南山エクステンション・カレッジ 公開講演会

3月18日に、南山大学創立50周年記念基金事業南山エクステンション・カレッジ公開講演会として、映画字幕翻訳者の戸田奈津子氏をお招きし、「字幕の中に人生～スクリーンからのぞく海外文化～」をテーマに名古屋キャンパス・フラッテンホールでご講演いただきました。

10年近い下積み時代を経て、1,500本以上の作品を手掛けてきた戸田氏は、観る人が映画そのものを楽しめるように考えた字幕づくり、夢を持ち続けることや情報ではなく教養を身に付けることの大切さについて、数々の著名な俳優との出会いから体験したことを交えながら語られました。

戸田氏の貴重な体験談は、ご来場者の方々を魅了していました。



2017.3.20

2016年度卒業式

3月20日に、名古屋キャンパス体育館で2016年度卒業式を行い、2,250名(学部生2,145名、大学院生105名)の卒業生を送り出しました。

3月末日で任期満了により退任のため、最後の卒業式となったミカエル・カルマン前学長は、告辞におい

て、南山大学の教育モットー「人間の尊厳のために」についての「food for thought」(考える材料・食料)として「南山大学の卒業生であることは皆さんにとって何を意味するのか」と問いかけてました。卒業証書の中身・位置づけを定義するディプロマ・ポリシーの具体例として、バツ初代学長の記念碑に刻まれている言葉「汝らは世の光なり」を挙げ、「その場そのとき自分の光を輝かせて、この世を少しでも明るくするのは本学卒業生の使命」であると述べ、南山大学の教育モットー「人間の尊厳のために」が、自分の光を積極的に輝かせる勇氣や人生の支えとなることを祈っていますとメッセージを贈りました。

当日はインターネット(USTREAM)で卒業式の模様を同時中継しました。



2017.3.31-2017.4.5

フレッシュマン祭



3月31日から4月5日までの(4月3日を除く)5日間、フレッシュマン祭を開催しました。

これはクラブやサークルを紹介する新入生歓迎のイベントで、キャンパス内のメインストリート等にブースを設けたり、グリーンエリアでは、応援団による演舞披露や音楽団体による歓迎ライブ等を行ったりし、自分たちのクラブを新入生に紹介していました。

2017.4.1

2017年度入学式

4月1日に、名古屋キャンパス体育館で2017年度入学式を行いました。カトリックの厳粛な雰囲気の中、2,477名(学部生2,407名、大学院生70名)の入学者を迎えました。

鳥巢義文新学長は告辞において、「本学は教育モットーとして『人間の尊厳のために』を掲げています。人を敬い相互に大切に社会の実現を目指しているということです。本学で学び始める皆さんには、自分の目の前の物事や現象、さらに皆さん自身について『問いかけ』をお願いしたい」と語りました。また、共有したい言葉として「自覚・成長・円熟」という三つの言葉を挙げ、自分自身の勉学の目標を問うことによって「自覚」された事柄を実現するために「成長」し、さらに「円熟」を目指してくださいとメッセージを贈りました。

当日はインターネット(USTREAM)で入学式の模様を同時中継しました。



News

南山チャレンジプロジェクト開始

学生が主体となり、学内の活性化や大学での学びを生かした取組み、地域との交流、国際交流などを推進する課外活動を大学として支援し、学生の成長につながる多様な機会を作り出すことを目的として、2017年度から南山チャレンジプロジェクトを開始しました。

今年度は4つの募集テーマ(①南山大学を活性化させる活動、②学びを深める活動、③地域交流活動、④国際交流活動)に合致した学生企画の課外活動を募集したところ、

取組名称[グループ名]および内容

アルバイトをする中で直面した労働問題について、調査をし、対処法を記載した冊子の作成、配布 [Bright berry]

ブラックバイトは決して自分に関係ない問題ではないことを認識し、問題に直面した時の対処法を紹介する冊子を作成し、配布を目指します。

食を通して難民を知る、支援する [Meal for Refugees at Nanzan]

学食で特別メニューを提供し、1食の売り上げにつき20円を寄付します。学生が食という身近なものを通して難民を知るなどの機会を作ります。

南山大学の留学生と小学生の交流支援 [トナカイトナカイ]

南山大学への留学生と、日本の小学生が自分たちの国の遊びなどを通して交流し、留学生は日本文化を、小学生は様々な文化、言語の存在などから世界の広さを知る機会を作っていきます。

16件の魅力的な企画の応募がありました。

選考の結果、下記の7件を採択し、5月24日

にプロジェクト採択式を行いました。これまでにない新たな学生の課外活動が実施されることを期待しています。

南山大学在学生向けスマートフォンアプリの制作 [NaN]

南山大学在学生が大学での生活がより便利になるように、休講、補講情報などをプッシュ通知してくれるなど様々な機能を持ったスマートフォンアプリケーションのリリースを目指します。

ゆかたフェスティバル [南山ゆかたフェス実行委員会]

日本文化に親んでもらうため、浴衣で1日過ごしてもらう日を設定します。7月17日に行う予定で、学生及び教職員に参加者を募るとともに、当日は日本文化に関するイベントも実施予定です。

スペイン語母語教育 [スペイン語母語教育グループ]

愛知県、名古屋市内に在住でラテン系のルーツを持つ家庭に生まれた子どもたちへスペイン語教育を通じた支援を行い、自らの文化への理解も深めていく活動を行います。

グローバルな視点で障がい者との共存社会を模索する [Iris]

障がい者がおかれた社会的、経済的、政治的状況について理解を深めます。連携する障がい者施設と協働プロジェクトを実施したり障がい者政策について学んだりし、障がい者のためにどのような政策を行うべきかを考え、提案を目指します。



プロジェクト採択式の様子

名古屋市大学生消防団 南山大学分団結成

2017年度より、名古屋市大学生消防団南山大学分団が結成されました。この学生消防団は、実際の火事現場での活動は行いませんが、消防団の活動を広報することで、地域の防災力の強化を目指します。4月22日に愛知大学で開かれた平成29年度名古屋市大学生消防団の総会では、南山大学を含め参加した全7大学の学生消防団の取り組みや今年度の活動目標などが発表されました。本学団員25名をまとめる団長で外国語学部英米学科4年の菊池夏子さんは「南山大学は留学生も多く、語学が堪能な学生も多いので、南山だからこそできる活動をしていきたい。」と抱負を語りました。



Special Events Schedule

2017.7.7-2017.7.9

第58回上南戦

7月7日から7月9日の3日間にわたり、第58回上南戦(上智大学・南山大学総合対抗運動競技大会)本戦が上智大学で開催されます。今年の上南戦のキャッチフレーズは「ONE for the win」で「勝利に向かって全員が一致団結しよう」という強い想いが込められています。選手は、昨年度に引き続き総合優勝を目指して練習に励んでいます。ぜひ応援をよろしく願います。



2017.7.22-2017.7.23

オープンキャンパス

昨年は8,000人を超える方にご来場いただきました。今年は2017年4月に名古屋キャンパスへ移転した総合政策学部、新たに開設した国際教養学部の説明も含め、全学部の企画を7月22日(土)・23日(日)に行います。模擬授業、学部説明会、在学生による特別企画などさまざまな企画を用意しています。また、一般の皆様を対象とした公開講座も実施する予定です。ぜひご参加ください。

詳細は、大学公式Webページ「受験生の皆様」をご覧ください。



<http://www.nanzan-u.ac.jp/admission/index.html>



2017.7.30, 2017.8.5-2017.8.8

小・中学生向け講座「大学で、未来の自分を探してみよう！」

南山大学の知的財産を地域に還元することを目的として小学生(4年生～6年生)・中学生を対象とし、以下の日程で体験型の9講座を開催します。

◀:小学生対象、▶:中学生対象

7月30日(日)	● さあ、いろいろな国の文化を知ろう! ▶ 世界では何が起きているか
8月 5日(土)	● 環境問題について大学生と話しあってみよう! ▶ 触って楽しむ博物館-人類博物館の楽しみ方
8月 6日(日)	● 考古学者になりきろう!-縄文土器を研究する
8月 7日(月)	● わくわくロボットランド(小5～6年生対象) ▶ ロボット・モータ制御の仕組みを知ろう
8月 8日(火)	● 有罪・無罪を決めるのは君だ! ▶ 民事裁判を体験しよう

小・中学生向け講座の参加費は無料です。

申込締切は7月12日(水)です。Webページからお申し込みください。詳細は、大学公式Webページをご覧ください。



<http://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/koho/koenkai/index.html>

2017.9.30

父母の集い

9月30日(土)に開催します。学部生保証人の皆様に対し、本学における教育・研究をはじめ、留学や進路支援に関する取り組みについてご説明させていただきます。機会となっております。

当日、希望される方は、指導教員との個別面談も実施しています。

※9月頃に別途、保証人様宛に案内文書をお送りします。



News

法学部 青木清教授が「第28回尾中郁夫・家族法学会奨励賞」を受賞

法学部法律学科の青木清教授が、家族法分野で権威のある「第28回尾中郁夫・家族法学会奨励賞」を受賞しました。尾中郁夫・家族法学会奨励賞は、日本加除出版株式会社第4代社長であった故尾中郁夫氏が生前、出版事業を通じて、家族法関係の理論的、制度的な発展に対する多くの助成的な貢献をしたことを顕彰するために設けられたものです。

受賞対象は、同教授が著した『韓国家族法-伝統と近代の相剋』(信山社、2016年)で、5月29日に東京都千代田区霞が関にある法曹会館で贈呈式が行われました。同賞の選考委員会を代表して、米倉明東京大学名誉教授が、同書を「日本人単独著者による初の韓国法研究書である」と評価するとともに、「これに倣い、日本人研究者によるアジア各国法の研究書が次々と世に出ることを期待したい」とする講評を述べられました。



2016年法学検定試験において、南山大学が5年連続団体賞を受賞

2016年法学検定試験において、南山大学が団体賞スタンダード(中級)コース 合格率の部 第2位を受賞しました。5年連続の団体賞受賞となります。

法学検定試験は、法学に関する学力を客観的に評価する全国規模の検定試験であり、本学法学部では学部生に対し、その受験を勧めています。今回の受賞は、法学部における日頃の勉学の成果があらわれたものであり、この受賞を励みとして、より一層、学部をあげて教育の充実に取り組んでいきたいと考えています。



海外からのご来訪



2017.3.6

中国から青海民族大学・尕宝英副学長、同大学外国語学院・吳曉紅副院長、同学院・巴圖主任教師、同大学国際教育学院・毛春合先生が来学されました。

青海民族大学は本学総合政策学部の「南山短期アジア留学プログラム(NAP)」の受入れ大学で、古くから交流があります。今後は学生の交換留学や教員交換などによる交流を活性化させ、国際的視野を持つ人材の養成を目指します。



2017.3.23

JICA(国際協力機構)が招聘した中央アジア5カ国(トルクメニスタン、ウズベキスタン、キルギス、カザフスタン、タジキスタン)の高等教育関係者15名を含む視察団が来学されました。視察団は、3月12日から3月25日まで日本の高度産業人材育成に関する視察・情報収集を行うために招聘されました。本学では外国人留学生別科の授業の視察と施設(Q棟2階ラーニング・コモンズ)見学の後、S棟で理工学部の人材育成や産学連携などについて説明を受けられ、活発な質疑応答が行われました。



2017.3.30

平成27年度 文部科学省「大学の世界展開力強化事業」に採択されたプログラムの連携先であるコロンビアの教皇庁立ハベリアーナ大学から、学長ホルヘ・ウンベルト・ペラエス氏および副学長(国際担当)ルイス・ダビッド・ブリエト・マルティネス氏が、南山大学との学生交流協定締結のため来学されました。



2017.5.29

大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館の総領事ヴェルナー・ケーラー氏が来学され、総領事着任のご挨拶で鳥巢学長を表敬訪問されました。



2016年度 学長表彰

卒業予定者のうち品行方正で、学業あるいは課外活動で特に優れた成績を修めた学生、または特に顕著な善行が在学中継続した学生32名に、その努力と栄誉を称え、学長から表彰盾を授与しました。

【人文学部】 7名	【法学部】 3名
【外国語学部】 7名	【総合政策学部】 4名
【経済学部】 3名	【情報理工学部】 3名
【経営学部】 3名	【短期大学部】 2名

2017年度 学部長表彰

年度ごとに品行方正で学業に優れた成績を修めた学生127名に、その努力を称え学部長から表彰状を授与しました。

【人文学部】 21名	【法学部】 15名
【外国語学部】 24名	【総合政策学部】 21名
【経済学部】 15名	【理工学部】 14名
【経営学部】 14名	【短期大学部】 3名

名誉教授称号授与

次の8名の教授に対しその功績を称え、2017年4月1日付で名誉教授の称号を授与しました。

人文学部 服部裕幸 教授
 人文学部 CALMANO, Michael 教授
 人文学部 坂本正 教授
 外国語学部 橋本恵 教授
 外国語学部 木下登 教授
 経済学部 山田正次 教授
 法学部 高橋広次 教授
 総合政策学部 池上久子 教授



(中央) 服部裕幸教授



(中央) CALMANO, Michael 教授



(中央) 坂本正教授



(左から2人目) 橋本恵教授



(中央) 木下登教授



(中央) 山田正次教授



(左から2人目) 高橋広次教授



(中央) 池上久子教授

退職

2017年3月31日付

●人文学部

教授 服部裕幸
 教授 鈴木貴之
 教授 CALMANO, Michael
 教授 阿部泰明
 教授 坂本正
 准教授 藏本龍介

●外国語学部

教授 橋本 恵
 教授 木下 登
 講師 WILSON, John
 講師 DAROS, Henri

●経済学部

教授 山田正次

●法学部

教授 高橋広次

教授 菊池理夫

●総合政策学部

教授 江田信豊
 教授 池上久子
 教授 須藤季夫
 教授 MUNCADA, Felipe
 准教授 金美貞
 講師 茨木博史

●短期大学部

語学講師(A.I.) 川上 綾

●ビジネス研究科

教授 八木エドワード

●法務研究科

教授 加藤良夫
 教授 松浦以津子
 教授 玉井利幸

●英語教育センター

語学講師(L.I.) DAVANZO, Christopher

●留学生別科

語学講師(L.I.) 伊東克洋

2017年4月28日付

●人文学部

准教授 SAGAYARAJ, Antonymsamy

新任教員紹介

2017年4月1日付

●人文学部

教授 高橋亜希子
 (専攻分野: 臨床教育学)
 教授 鹿島 央
 (専攻分野: 音声学・日本語音声教育・日本語教育)
 准教授 岡崎隆哲
 (専攻分野: 教父学)
 准教授 和泉 悠
 (専攻分野: 言語哲学、意味論)
 講師 林晋太郎
 (専攻分野: 言語学)

●外国語学部

教授 吉澤英樹
 (専攻分野: フランス語圏文化・文学、兩次大戦間文化・文学)
 准教授 小阪知弘
 (専攻分野: スペイン近代演劇、比較文学)
 准教授 平田 周
 (専攻分野: 社会思想史、フランス哲学)
 准教授 中屋宏隆
 (専攻分野: 経済学、ドイツ経済、ヨーロッパ統合)
 准教授 間瀬朋子
 (専攻分野: インドネシア地域研究)
 講師 平松彩子
 (専攻分野: アメリカ政治外交史、政治学)

講師 TOLAND, Sean
 (専攻分野: 英語教育)
 講師 SAKAMOTO, Fern
 (専攻分野: 英語教育)

講師 岩崎 賢
 (専攻分野: ラテンアメリカ研究、宗教学)

講師 松川雄哉
 (専攻分野: フランス語教育)

講師 水守亜季
 (専攻分野: ドイツ文学)

講師 MANGGA, Stephanus
 (専攻分野: キリスト教学、言語学)

講師 鈴木史己
 (専攻分野: 中国語学)

●経済学部

准教授 相浦洋志
 (専攻分野: 地域経済学、産業組織論)
 講師 大鐘雄太
 (専攻分野: 金融論、計量経済学)

●経営学部

講師 堀田 治
 (専攻分野: マーケティング、消費者行動論)
 講師 井岡佳代子
 (専攻分野: 経営史)
 講師 李 エン
 (専攻分野: 会計)
 講師 HEATHER, James
 (専攻分野: 英語教育)

●法学部

教授 長谷川一年
 (専攻分野: 政治学)
 教授 王 冷然
 (専攻分野: 民法)
 教授 齊藤高広
 (専攻分野: 経済法)
 准教授 服部 寛
 (専攻分野: 法哲学)
 講師 三上佳佑
 (専攻分野: 憲法)
 講師 中田裕子
 (専攻分野: 英米法)

●総合政策学部

教授 森 徹
 (専攻分野: 財政学、地方財政論、公共経済学)
 教授 平岩俊司
 (専攻分野: 国際政治学、対外政策論、朝鮮半島研究)

●理工学部

准教授 野田聡人
 (専攻分野: 電磁波工学、通信工学)

●国際教養学部

准教授 吉田早悠里
 (専攻分野: 文化人類学、アフリカ地域研究)

●法務研究科

教授 榎本雅記
 (専攻分野: 刑事訴訟法)

教授 北川ひろみ

(実務家教員)

●外国語教育センター

准教授(S.L.I.) ELLIOTT, Darren
 (専攻分野: 英語教育)

語学講師(S.L.I.) 陸 心芥
 (専攻分野: 韓国朝鮮語教育)

語学講師(L.I.) 梶浦直子
 (専攻分野: ドイツ文学、ドイツ語教育)

語学講師(L.I.) OTTOSON, Kevin
 (専攻分野: 英語教育)

語学講師(L.I.) LOTT, Danielle
 (専攻分野: 英語教育)

語学講師(L.I.) BROADBY, Deborah
 (専攻分野: 英語教育)

語学講師(L.I.) 虞 萍
 (専攻分野: 中国語教育)

語学講師(L.I.) LANDEROS NERI, Sergio Gustavo
 (専攻分野: スペイン語教育)

語学講師(L.I.) DUCROS, Garance
 (専攻分野: フランス語教育)

●体育教育センター/理工学部

講師 飯田祥明
 (専攻分野: 体育科学)

●国際センター

講師 原 由紀惠
 (専攻分野: 国際教育)

●保健センター

助教 内田亜希子
 (専攻分野: 臨床心理学)

助教 日比野円香
 (専攻分野: 臨床心理学)

●人類学研究所/人文学部

准教授 宮脇千絵
 (専攻分野: 文化人類学)

寄附者ご芳名

「南山大学将来構想募金」へのご協力に感謝いたします。

三機工業株式会社 中部支社 様
 株式会社桜木不動産コンサルタント 不動産鑑定士 武藤 正行 様
 南山大学体育会OB会 様 南短OG会 様

服部恵美子様	松岡珠恵様	古山美保様
猪本小弓様	広田満里子様	菱川宗弘様
三輪紀光様	長江邦彦様	石原敬三様
三輪 泉様	菱田 昭様	服部彰善様
平子由美子様	溝口正己様	松本義市様
山口理恵子様	大村陽子様	遠藤亜矢子様
浅野さかえ様	木越律子様	菊池文男様
後藤 悟様	本田美保子様	掛江映子様
坂井佐千子様	伊藤照満様	山本陸美様
沓名航一様	渡辺久美様	石川理恵様
鈴木俊郎様	梶浦 賢様	武田祥子様
吉川正男様	熊崎のみ子様	加藤敏夫様
柴田美紀様	高木一憲様	
山本正男様	田代和典様	匿名ご希望者
武田敬博様	春田 剛様	28名様

「南山大学教育研究支援」へのご協力に感謝いたします。

田村誠久様
 宗教法人 カトリック神言修道会 様 匿名ご希望者
 物質文化研究会 代表 後藤 明 様 3名様

人文学部准教授
SAGAYARAJ, Antonymsamy氏がご逝去
 人文学部准教授のSAGAYARAJ, Antonymsamy氏
 (50歳)が、2017年4月28日にご逝去されました。
 謹んで哀悼の意を表します。

